

## 平成25年 第3回北海道定例会 予算特別委員会

(第1分科会)

(総合政策部所管 平成25年10月1日)

質問者 公明党 吉井 透 委員

質問	答 弁
<p>一 HACについて</p> <p>それでは、通告に従いまして、以下、総合政策部所管事項について、これまでの質疑と重なる部分もございますが、HACについてお伺いをいたします。</p> <p>まず、主な経緯を整理をさせていただきたいと思いますが、HACについては、昨年7月に事業計画を策定し、道の様々な支援策を受けながら、事業を運営してきたところであります。</p> <p>しかしながら、昨年の冬の悪天候による欠航便の増加により、利用者離れが加速し、経営状況が事業計画を大きく下回ったことから、今年4月に実績を踏まえながら、事業計画を見直したということでございます。</p> <p>その後、HAC社員の方々の努力などもあり、今年4月以降、HACは、機材故障などによる欠航がほとんど発生せず、安定した運航が続いていたと承知をしております。</p> <p>また、7月からは、新たに「丘珠―三沢」線が就航するとともに、JALとのコードシェアも始まり、利用客が順調に増加しているということでございます。</p> <p>HACの発表によりますと、8月のひと月で、8月は私も利用いたしましたわけではありますが、1万8,000人弱の利用客があり、平成23年6月にスタートした現体制では、最も多くの方の利用があったところと承知をしております。</p> <p>このように、本年4月以降、ようやくHACの再生が図られる状況になってきた中、8月21日に、道がJALに対し、HACの子会社化の要請を検討しているとの新聞報道があり、さらに、9月13日には、JALがHACを再子会社化する方向で、検討に入った旨の報道があったところでございます。</p> <p>こうした経過を踏まえ、以下、HACについて伺ってまいります。</p> <p>(一) 経過について</p> <p>今般、株主をはじめ、議会や道民に何ら説明が無いまま、道とJALがHACの再子会社化をするという方針で協議を行っているというマスコミ報道が先行してしまったことは残念なことであると思います。</p> <p>改めて、この間の経過について、お伺いをいたします。</p>	<p>(交通企画監)</p> <p>この度のHACのJALグループ復帰に係る経過についてでございますが、HACは、JALの経営破綻に伴い、JALグループからの離脱を余儀なくされましたが、引き続き、離島路線を含む道内航空路線を維持するため、道が筆頭株主となり、就航地の自治体や経済界の支援、更には昨年度からの道の支援策などにより、厳しい経営環境の中ではございますが、経営改善が進みつつございます。</p> <p>一方で、JALのグループ外企業となったことにより、コスト面で課題を抱えており、将来的な機材更新なども含め、安全で安定した運航の継続を図る観点からは、実績のある航空運送事業者の下で事業運営を行うことが、最も望ましいと考えているところであります。</p>

質 問	答 弁
<p>(二) 交渉の論点について</p> <p>その交渉の論点についてお伺いをしますが、そもそもHACは、離島の振興をはじめ、道民生活や地域間交流、観光の振興に不可欠な道内航空ネットワークの中核を担う航空会社としての役割を期待されていると認識をしております。</p> <p>道においては、これらのHACの役割を踏まえ、JALとの交渉・調整に際しては、離島航空路線の堅持、現行路線の維持、減資に応じない、という3点をJAL側に求めて、交渉を行うものと承知をしておりますが、この点について、道の考え方を改めてお伺いをします。</p> <p>(三) 国の意向について</p> <p>3点確認をさせていただきましたが、次に、国の意向について、お伺いをします。</p> <p>HACは、離島路線を運航するなど、公共性の高い公共交通を担っているわけですが、今定例会の代表質問で、我が党の同僚議員の質問に対して、「与党関係議員に対して、更なる支援について働きかけを行ったところであり、JALや国などと検討・調整を進めている」との答弁がありましたことから、JAL側との協議においても、国土交通省との調整を行っていると考えます。</p> <p>そこで、道がJAL側に求めている離島路線の堅持、現行路線の維持、の2点について、国土交通省はどのような意向を持っているのかお伺いをします。</p> <p>(四) 道の出資比率について</p> <p>こうした2点、国の方も理解をしているというご答弁でしたが、次に、道の出資比率の関係を質問させていただきますが、JALがHACを再子会社化することによって、JALから経営ノウハウの伝授などを含む経営支援を期待でき、HACの経営の安定化が期待できると考えます。</p> <p>しかしながら、JALが過度の議決権を有することになると、JALが経営破綻をした際に行ったように、不採算路線の廃止を行うことも考えられます。</p> <p>道として、道内航空ネットワーク維持のため、HACの運営などに対し、一定の発言力を持つためにも、ある程度の株式を保有する必要があると思っておりますが、所見をお伺いをします。</p>	<p>こうした中、自民党の航空政策特別委員会におきまして、経営再建を果たし、再上場したJALによる国内ネットワーク対策について検討が進められておりましたことから、道といたしましては、JALグループの一員になることも含め、HACへの更なる支援の必要性について、この航空政策特別委員会の関係議員の方々に働きかけを行い、国土交通省の仲介により、JALとの検討・協議を始めたところでございます。</p> <p>(航空局長)</p> <p>交渉にあたっての論点についてでございますが、HACは、離島の振興をはじめ、地域医療などの道民生活や地域間交流、観光の振興に不可欠な道内航空ネットワークの中核を担っている航空会社でございます。道といたしましては、今後ともこうしたHACの役割を維持することが重要であると考えているところでございます。</p> <p>JALグループへの復帰に向けては、HACが期待されている役割を十分踏まえ、離島航空路線の堅持や現行路線の維持について申し入れてきたところでございます。</p> <p>また、株主や関係者の理解により支えられ運航を継続してきたことから、HACの経営再建にあたり、既存株主が大きな損失を被る減資などの手法を用いることのないよう求めてきたところでございます。</p> <p>(航空局参事)</p> <p>国土交通省の意向についてでございますが、国土交通省では、離島航空路線が、離島住民の日常生活に不可欠なものでありますことから、離島航空路線の維持を図るため、地域公共交通確保維持改善事業による補助制度を設けているところであり、離島航空路線の堅持については、十分理解が得られていると考えております。</p> <p>また、離島航空路線以外の現行路線の維持につきましては、路線維持が航空会社の裁量に基づくものであることを踏まえつつも、地方航空路線が地域住民の生活や地域の活性化に重要な役割を担っておりますことから、現行航空路線の維持に対しましても、理解は得られているものと考えております。</p> <p>(交通局長)</p> <p>道の出資比率についてでございますが、現時点で、JALとの検討・協議の中で、出資比率など資本構成については、協議は継続中でございますが、道といたしましては、HACが離島の振興をはじめ、地域医療などの道民生活や地域間交流、観光の振興に不可欠な道内航空ネットワークの中核を担っている航空会社であることや現在の筆頭株主である道の役割、HACの運航を支えるために支援をいただいている他の株主の方々との関係などを考慮しますと、道としても一定程度の出資を継続し、JALに対し、本道におけるHACの役割について主張していく必要があると考えているところでございます。</p>

質 問	答 弁
<p>道側の発言、大事だと思いますので、これはしっかりやっていただかなくてはいけないと思います。</p> <p><b>(五) 債務超過の解消策について</b></p> <p>続いて、債務超過の解消策についてですが、HACにおいては、昨年の冬期間の悪天候により、欠航が発生したことから、利用者離れが加速し、大幅な収入減少となり、平成24年度決算においては、2億9,600万円の最終赤字を計上し、1億1,600万円の債務超過に転落したと承知をしております。</p> <p>道は、減資には応じられないとして交渉にあっていると承知をしておりますが、JALがHACの経営から撤退する際に、札幌市をはじめ、7市町や民間企業が新経営体制に対し出資した経緯を踏まえると、債務超過解消のための減資には応じられないとする道の主張は当然のことと考えます。</p> <p>しかしながら、減資を行わず、債務超過を解消するのは、なかなか困難なことでもであると承知をしております。</p> <p>どのような対応をされるのか、その具体策をお伺いをします。</p> <p>様々な工夫も含めて、しっかりと対応をお願いしたいと思います。</p>	<p><b>(交通企画監)</b></p> <p>債務超過の解消策についてでございますが、HACにおきましては、平成24年度決算において、2億9,600万円の損失を計上し、1億1,600万円の債務超過の状態にございます。</p> <p>このため、HACにおきましては、早期の債務超過の解消に向けて、安全で安定的な運航を実現するとともに、旅行会社との連携を深め、旅行商品を積極的にPRするなど、利用促進に取り組んでいるところであり、道におきましても、旅客収入の増加に向けて、様々な利用促進に取り組んできてございます。</p> <p>JALグループへの復帰に向けましては、早期の債務超過の解消が課題になりますことから、コードシェアの拡大など、JALによる収入増加策などを引き続き求めてまいりますとともに、道といたしましてもJALと協力して経営改善に取り組み、早期に債務超過の解消を図っていく必要があるものと考えております。</p>
<p><b>(六) 丘珠空港について</b></p> <p>続いて、丘珠空港等の関係で質問させていただきますが、現在、丘珠空港に就航している航空会社は、HACだけであることを考えると、HACの問題は、丘珠空港とセットで検討すべきであると考えております。</p> <p>先日、丘珠空港の利用者が700万人に達したとの報道がございました。</p> <p>現在、丘珠空港の年間の利用者は、13万人程度で推移をしておりますが、エアーニッポンネットワークが就航していた平成22年度までは、30万人を超える利用者があったことから、丘珠空港の潜在的な需要は高いものがあると考えております。</p> <p>この潜在的な需要を最大限活用し、丘珠空港を地域の発展に貢献する道内航空ネットワークの拠点空港として活性化させるために、地域が一体となり、新たな需要の掘り起こしなどに取り組んで行くことが必要であると考えております。</p> <p>先の代表質問で、我が党の同僚議員も取り上げましたが、今年の7月、フジドリームエアラインズが小型ジェット機で行ったテストフライトでは、初めて民間のジェット旅客機が丘珠空港へ離発着したことで、ジェット機就航の可能性が高まったと認識しております。</p> <p>今後、丘珠空港の活性化を図るためには、こうしたジェット化や滑走路延長が必要であると考えておりますが、改めて所見をお伺いします。</p>	<p><b>(航空局長)</b></p> <p>丘珠空港のジェット化などについてでございますが、丘珠空港は、ビジネス需要や高度医療機能など、地方のニーズに対応する道内航空ネットワークの中核を担う空港として、重要な役割を果たしておりますが、現在、丘珠空港には、HACが就航しているのみで、利用者数は年間13万人程度にとどまっている状況にございます。</p> <p>こうしたことから、道では、就航地の自治体や経済界などで構成する「HAC利用促進検討会」を設置し、HACの利用拡大に向けた取組を行っているほか、札幌市では、関係機関と連携しながら、地元産品の産直市の開催や地域の歴史講座の開催など、空港の利用促進やにぎわい創出などに取り組んでいるところでございます。</p> <p>こうした中、本年7月、離着陸の安全性や騒音を確認するため、小型ジェット機によるテストフライトが実施されるなど、丘珠空港の活性化に向けて、民間レベルで新たな取組がなされたことは、大変意義深いものと受け止めているところでございます。</p> <p>丘珠空港のジェット化や滑走路延長につきましては、住民の方々のご理解を得ることが重要であると考えておりまして、この度のテストフライトに当たっても、札幌市が主体となって住民の方々への説明会などを行ってきたところでございまして、道といたしましては、札幌市の意向を踏まえ、連携を図りながら、丘珠空港の活性化に向け、取り組んでまいりたいと考えております。</p>

質 問	答 弁
<p>今、ご答弁をいただきましたが、色々な工夫があるということでもありますけども、空港は飛行機が飛んでこそその空港でございますから、ここはしっかりわきまえていただきたいと思います。</p> <p>また、札幌市と連携をされるということでもありますけれども、しっかりと連携しての取組をお願いしたいと思います。</p> <p><b>(七) HACの将来的な株価について</b></p> <p>次にHACの将来的な価値のことをご質問させていただきます。</p> <p>今年7月にジェット機によるテストフライトも無事行われ、11月からチャーター便のようなものが就航するようでございますが、これまでの丘珠空港の将来のジェット化や滑走路延長に向けた動向を勘案しますと、将来は、他の航空会社もほとんど丘珠空港に乗り入れをするようになり、乗り継ぎ路線として、HACの利用者も増えていくことが考えられるわけでありまして。</p> <p>このように考えていけば、成長の可能性のあるHACの株価というものは、将来、必ず高くなっていくものと考えます。</p> <p>今後のJALとの交渉に際しては、こうしたHACの株価の価値を、いわゆる「将来価値」をJALに認めさせるべきだと考えておりますけれども、道の所見をお伺いをします。</p> <p>JALの方には、丘珠空港の環境変化も併せてご説明をされるというご答弁をいただきました。</p> <p>8月に、私も乗ったのは利尻便でございましたけれども、ANAも飛んでいるにもかかわらず、搭乗率80%という、夏であるということもありますけれども、高い搭乗率を記録しているというお話も伺いました。</p> <p>丘珠空港のこうした利便性を考えると、この「将来価値」というものが非常に高いと思います。</p> <p>いろんなビジネスモデルも検討していただきたい訳でありますけれども、そうしたことをしっかり、JALの方にもお伝えをいただいて、交渉していただきたいと思います。</p> <p><b>(八) 道の説明責任について</b></p> <p>最後になりますけれども、道の説明責任についてお伺いをして終わりますが、今後のJALとの交渉にあたっては、道として守るべきところはしっかり堅持をしながら進めるべきだと考えておりますけれども、交渉過程においては、債務超過解消の方法、株主が保有する株式の構成割合など、極めて不透明な部分が多々あるものと承知しております。</p> <p>しかしながら、何よりも優先すべきは道民の利益であり、また、今後、新たな道民負担が発生する可能性も否定できないことを踏まえると、今後は、交渉の節目節目で議会をはじめ、道民への丁寧な説明責任を果たすべきであると考えますが、所見をお伺いをします。</p>	<p><b>(航空局参事)</b></p> <p>HACの将来的な株価についてでございますが、HACの株価回復のためには、経営の健全化が必要であり、経営改善を加速するため、道では、HACへの支援策について、JALと検討・協議を進めているところでございます。</p> <p>現在、HACは、丘珠空港を拠点として事業を運営しておりますが、厳しい経営状況ながら、7月からのJALとのコードシェアや三沢線の就航などにより、徐々に経営は改善されつつあります。</p> <p>道といたしましては、JALに対し、現在、HACが経営を改善しつつある状況や小型ジェット機のテストフライトが実施されるなど最近の丘珠空港を取り巻く環境の変化などについて、説明していく考えでございます。</p> <p><b>(交通企画監)</b></p> <p>道の説明責任についてでございますが、道といたしましては、HACのJALグループ復帰に向けて、HACがJALグループからの離脱を余儀なくされて以降、株主や道内外の地域の理解と協力に支えられて運航を継続してきたということを最大限大切にすることを基本に、JALとの検討・協議を継続していくこととしておりまして、その過程におきましては、議会でのご議論や株主をはじめとする関係者の皆様のご意見を踏まえながら対応することが重要と考えております。</p> <p>今後、JALとの検討・協議を進める中で、議会や株主をはじめとする関係者の皆様方に対し、検討の進捗状況を報告するなど、説明に意を尽くしてまいりたいと考えております。</p>

質 問	答 弁
<p>ただいま、HACについて様々な点からご答弁をいただきました。</p> <p>先ほども申し上げましたが、このHACの問題は、道民の利益に直結する大変重要な課題であり、知事の考えを直接お聞きをしたいと思いますので、委員長におかれましては、お取り計らいの程、よろしく願いをします。</p>	

